

令和5年度 社会福祉法人こうち福祉会事業報告



障害福祉サービス事業	：	ライフ・ステージ	あおぞらセンター（定員30名）
		ライフ・ステージ	蒼空舎（定員40名）
		ライフ・ステージ	第2あおぞら（定員20名）
		ライフ・タウン	あおぞらホーム（定員104名）
		ライフ・タウン	蒼空舎（定員9名）
相談支援事業	：	ライフ・サポート	あおぞら

いきいき工房 クッション、菓子袋詰め、薬味入れ、乾燥糸こんにゃく

生活介護 ライフ・ステージ あおぞらセンター

サービス管理責任者：林 愛佳

1、人員について

メンバー14名：支援員2名



- ・ミシン（袋とじ）は、検品をする為に支援員が行った。
- ・食品内職についても、最終工程は不良がないよう支援員が複数名で確認を行った。
- ・大勢のメンバーと作業する事が困難となったメンバーに応じて個室を利用し、作業できるよう個別の対応を行った。また、強度行動障害研修で得た支援方法を実践した。

2、メンバー活動

- ・コロナやインフルエンザ等、様々な感染対策のため、毎日の検温、手洗い、うがい、消毒を習慣にできるよう見守り、声掛けを行った。天気の良い日だけに限らず、1年を通して冷暖房を利用しながら常に換気を行った。併せて、マスク着用ができるメンバーについては正しいマスク着用の声掛けを行った。
- ・希望者には、ほぐしケースを使用してもらい、ブレンド作業では吸塵器を取り付けてホコリ対策を行った。メンバーにはメガネ、マスク、白衣、帽子を着用してもらい、作業終了後には身体に付いたホコリはハタキで除けた。
- ・エアコン、空気清浄器、加湿器のフィルター掃除をこまめに行った。
- ・作業前には量りの目盛りにズレが無いかわりに支援員が確認を行い、シールを貼った所を目印に定められた量での計量の徹底を行った。また、汚れや不純物がある場合は支援員に声掛けする等、品質維持を心掛けた。
- ・食品内職については、直接口に入れる食品を計量しているため、別室で作業を行った。（菓子袋詰め、だしパック、乾燥糸こんにゃく）

- ・ネット帽子、白衣を着用し、手洗いやうがい、消毒は元より室内に入る前の埃取り（ローラー）、作業専用のスリッパに履き替えて行った。また、衛生面全般として爪切りや入浴の声掛けを行い、家族にも協力依頼をした。
- ・いきいき工房内では複数の作業があるため、計画立てて作業を行い早めの原料引取りや取引先との話を密に行い、納期に間に合うよう流れを作った。
- ・毎朝の30分の散歩と、コロナウィルスの感染防止に気を付けながら、余暇活動の提供を行ってきた。
- ・作業や、日中生活全体を通して、コップ洗いや歯磨き、衣類の衣替えなど生活スキルが身につくよう、支援者と一緒に行った。



3、作業内容

(1) 受託製造

取引先：(株) 環境機器

- ①すいとるS ②すいとるシート ③すいとるL ④PEシート
⑤2Lオイル ⑥5Lオイル

※令和5年度作業量

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
すいとるS (箱)	15	12	23	6	24	20
すいとるシート (箱)	3				4	
すいとるL (箱)					3	16
PEシート (枚)						
2Lオイル (箱)		35		17	8	
5Lオイル (箱)		26	9	20	24	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
すいとるS (箱)	18	22	25	18	24	3	210
すいとるシート (箱)					4	1	12
すいとるL (箱)					6	34	59
PEシート (枚)							
2Lオイル (箱)	10	1	15	20	15	4	125
5Lオイル (箱)	20	6	14	22	8	16	165

※留意

資材仕入れに関しては、(株) 環境機器から入れている。

令和4年度までは、11月以降の作業量が集中していたが、保管できる倉庫を環境機器が準備してくれたことにより、年間を通してコンスタントに作業することができた。

(2) 内職作業（菓子袋詰め、だしパック袋詰め）

取引先：高知県特産品販売

- ① ミレービスケット×芋ケンピ袋詰め
- ② 土佐の生姜飴袋詰め
- ③ 鰹だしパック（ゆず皮入り）



※令和5年度作業量

4月～10月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ミレービスケット×芋ケンピ(袋)	6001	3581	3591	4805	3612	2396	3604
土佐の生姜飴(袋)	0	902	0	0	902	901	903
だしパック							
11月～3月	11月	12月	1月	2月	3月	合計数	
ミレービスケット×芋ケンピ	4793	4806	2409	0	2394	41992	
土佐の生姜飴	901	904	905	896	0	6309	
だしパック	574	550	0	592	0	1716	

※留意

食品を取り扱っているため別室で作業を行った。ネット帽子、白衣を着用し、室内に入る前の埃取り（ローラー）を行った。また、衛生面全般として爪切りや入浴の声掛けも行い食品作業で気を付けることをその都度、メンバーに伝えた。

賞味期限の印字が間違わないよう、作業日誌に賞味期限確認者を位置づけ、管理を行った。



(3) 内職作業（薬味入れ）

取引先：パステムマツザワ

※令和5年度作業量

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
0	6000	6000	7000	0	2000	4000	8000
12月	1月	2月	3月	合計数			
5000	0	4000	0	42000			

※留意

一度にできる冷凍庫の保管は仕上がり4000個なので、原料を取引先と確認しながら保管に最新の注意を払った。数え間違いや入れ間違いを起こしやすい為、正確に行うように声掛けをし、再度支援員が点検を行った。



(4) 内職作業（乾燥糸こんにゃく）

取引先：個別販売、よさこい工房（厨房含む）、生協

※令和5年度作業量

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
50	0	0	0	12	50	75	1
12月	1月	2月	3月	合計数			
30	59	0	0	227			



※留意

注文が決まった時期にあるわけではないので、賞味期限に気を付けながら在庫の回転に努めた。

4、強度行動障害研修

生活介護には、行動障害を伴うメンバーが10名以上います。月に1回、講師の西村さんを招いて「強度行動障害」について研修を行ってきた。座学での基礎研修、実践研修をしたり、個別のケース検討会を行うことで専門的な知識を学んできた。その中でも、2名のケース検討を集中的に行い令和6年3月27日に「強度行動障害継続研修事例発表」を法人全体の前で行う機会を設けてもらった。



いきいき工房 お楽しみ活動

生活介護 ライフ・ステージ あおぞらセンター

- 動物園で春を楽しもう (のいち動物園) (4月13日)
- ライオンズクラブ シネコン映画鑑賞(4月20日)
- イエローレシート買い物 (4月11日)
- スポーツ大会 練習 (5月16日)
- 沖田公園で遊ぼう (5月25日)
- 障がい者スポーツ大会 (5月28日)
- あじさい鑑賞 (6月6、8日)
- バーベキュー (7月20日)
- サーカスを観に行こう (10月6日)
- 健康診断 西病院 (10月23日)
- 芋堀り (10月26日)
- 焼き芋 (11月2日)
- もちつき大会 (12月13日)
- クリスマス会 (12月22日)
- 新年カラオケ大会 (2月6日)
- ジブリの世界を見に行こう (3月8日)
- お花見に行こう (3月28日)
- あおぞら体操 (講師を招いて、毎月1~2回程度)
- あおぞらで歌おう (講師を招いて、月2回)
- いきいき100歳体操 (月1~2回程度)
- あおぞら会 (月1回)
- 移動図書館 (第2水曜/月1回)
- あおぞら映画鑑賞会 (月1回)



ジブリを見に行こう



芋ほり



焼き芋

※合同活動も含む。



クリスマス



新年カラオケ大会



のいち動物園

あおぞらカントリー 畑ばたけ

継続B ライフ・ステージ 蒼空舎
生活介護 〃 あおぞらセンター

支援員：宮内 知志、川村 哲也、伊東 昌彦、谷脇 豊実

1、人員について

メンバー 15名 畑作業（あおぞら6名、蒼空舎3名）ニラ調整作業（蒼空舎6名）

支援員 5名

① メンバーの育成

個別支援計画の目標に向かい、メンバーの安全面への配慮を一番に考え、個々の多様性を認め、成長の変化に応じ様々な角度から支援してきた。

多様なメンバーがいる中、メンバー間の関わりあいを円滑に保てるよう、職員間でメンバーの現状を把握し支援した。

② 実習生の受け入れ

実習の要望があれば、積極的に受け入れた。また、卒業後の進路として、当法人が加われるように意識して実習生の対応を行っている。

2、メンバー活動

- ・体調管理に気を配る。夏の暑い時期は、休憩の回数を増やし、塩分補給に塩飴、水分補給にポカリを取り入れた。猛暑日など炎天下での作業を避け日陰になる原木ハウスなどで環境整備を行う。冬雨の時など、ハウス内で作業したり、環境整備などに切り替える。また、激しい雷雨の時など施設に戻り、落ち着くまで待機するなどの対応をとる。
- ・タオルや着替えを各自で用意し、汚れたり濡れたりした時に取り換えるよう支援を行う。また、帽子、長靴、軍手の着用を徹底させ、作業に対する準備を意識してもらう。
- ・作業後の手洗い・うがい・消毒などを支援する。畑での汚れを施設に持ち込まないように、汚れがひどい時は着替えをしてもらい、汚れを払ってから施設に入るよう支援した。

3. 自主農園製品

①果樹栽培（伊野町八田にて）

・桃

南国の桃生産者から指導を受けながら、栽培管理を行っている。来年度は少なくはあるも、収穫できる見込み。

・柿

農業改良普及所に剪定指導を受ける。樹形の作り方など、まだまだ把握していない事も多いので来年度も指導を受けるようにしていきたい。今年度は、カメムシが大量発生し、実が傷んでしまったものがいくつかあった。

・梅

一本、アブラムシの吸汁により枯れてしまい捕植する。幾本か大きく成長しつつある木があり、来年度、少なくともはあるも収穫できる見込み。

②レモン・水晶文旦（西ノ谷にて）

ハウス栽培。今年度4月中旬ハウスの上を開け忘れハウス内を蒸してしまい、木を枯らしてしまう。3月中旬、水晶文旦12本、レモン4本を捕植した。

③花卉栽培

・仕入れ

今年度、観葉植物については、出来るだけ再利用を心がけ、必要最低限の仕入れに留めた。肥料やポットなどの必要資材についても計画的に購入した。資材は年々高騰が続いており、少しでも安く資材を仕入れる工夫が必要である。

・製造

栽培管理において、夏まきのパンジー、ビオラは高温とコロナ感染が広まった時期で育苗が大変難しかった。適切な管理、育苗に今後も注力していきたい。春まきの花については例年より早く1月初旬に種まきを行ったが、順調に成長してくれたため、例年より販売時期を前倒し出来た。集客の為に、少し栽培の難しいとされる花も栽培をしていく。

・販売

主にハウス前や、あおぞら前の良心市で販売している。毎年購入してくださる学校、保育園が本年度も花苗の購入をしていただいた。本年度は新たに高知市内中学校が2校、卒業式用に花苗を購入開始してくれた。次年度も学校、保育園等に声をかけていく。

例年落札していた城西公園市民花壇の入札が不落となり、価格設定の見直しをして次年度は落札できるように慎重に値段設定をしていくようにする。

新たに高知市観光企画課様よりお話を戴き、10月より高知灯台前広場にプランターを80台設置し維持管理する作業を開始した。他にも高知大学朝倉キャンパス、(株)カダヤシード様など大口の注文が増えており 販売数は増加している。

リピーターとして直接ハウスに来て話しかけていただき購入してくれる顧客もずいぶん増えており、季節ごとに楽しみに花苗を買いに来てくださっている。プランター植栽で使った花など状態の良い物は、手入れをし、良心市で販売した。

④露地栽培

・仕入れ

肥料や薬剤、消耗品など必要な物を無駄にならないよう計画的に購入。資材の高騰は続いており、栽培に必要なだけ適宜購入するようにしている。

・栽培

大根：ネキリムシに被害されていたものもあったが概ね良い状態のものが栽培できた。

にんにく：試験的栽培。少し病気にやられている物があった。

玉ねぎ：例年栽培してきた南国早生の種が販売しておらず、浜育ちと言う品種を育苗、定植する。来年度収穫予定。

赤しそ：状態の良い物が栽培できた。

白菜：結球期に水切れをおこしてしまい、上手く巻かないものがあり収穫量が減った。

・販売

野菜の販売先は、スーパーの直産市、日曜日、飲食店、給食、弁当屋、よさこい工房、保護者等で出荷した。

⑤椎茸栽培

・仕入れ

本年度も地域林業総合支援事業補助の交付を受ける事が出来た。

原木：西土佐村森林組合で 3800 本を仕入れる。

種駒：森産業(株)にて約 7 万 (にく丸) 駒を仕入れる。

備品：量販店や通販等、最安値を調べて仕入れる。



・栽培

昨年度同様に支援事業補助を受け期間内に接種を終え、全数検査と書類審査を經由し補助金額が確定しました。

主な作業（接種、仮伏せ、本伏せ）には職員 1~2 名、メンバー 3~5 名で対応しました。収穫は職員 1~2 名、出荷は 1 名~他の作業が終わった者からの応援で対応。

ここ数年の傾向で温度（高温多湿）、病害（ラクテア、トリコデルマ）、害虫や害獣の対応が多くなっておりハウス内換気管理、殺菌剤や殺虫剤の散布、ハウス周りの除草等の管理が増えてきている。今回は栽培 1 年目の原木が 6000 本あり収穫量が増え、それに準じて売上も前年度より 114%UP した結果となった。

収穫量 5, 709. 0 kg (昨年度 2, 441. 1 kg) + 3, 267. 9 kg

・販売

販売先は野市青果、とさのさと、サンシャイン（太陽市）、華珍園、センター前良心市、よさこい工房、JA（春の里）、サニーマート（はるの市）A-MAX、土といのち、日曜日、第二、保護者、グループホーム、バザー等の販売があった。

品質をA品、B品、C品とランクを付け、A品、B品は生椎茸で販売し、C品はスライスで乾燥椎茸にし、よさこい工房に協力して頂き販売を行った。

⑥きくらげ栽培

・仕入れ

菌床：森産業㈱にて 960 床を仕入れる。

備品：量販店や通販等、最安値を調べて仕入れる。



・栽培・出荷

昨年度は 540 床、本年度は 960 床を導入（5 月に 480 床、7 月に 480 床）して各月 4 回（1 回につき 120 床）に分け 1 週間、期間をあけて切込みを入れ約 5 か月間、栽培をしました。

人力的には菌床を吊棒にセットする作業や定期的にハウス内の清掃が必要な時に職員 1 名とメンバー 2~3 名とで行った。収穫は基本、職員 1 名で対応して手入れ（石突き処理、洗い）は常駐として職員 1 名、メンバー 1 名で行い、これからの事も考え作業実習として数名体験してみたが常駐させるに至っていない。出荷（計量、パック詰め）も基本、職員 1 名でメンバーは出来ないのが現状です。

問題としては収穫 3 回目くらいから虫が発生、気温上昇による高温障害、きくらげ表面の異常、洗いの際の耳切れ等、栽培量や期間を増やしたら色々課題が出たが調整、記録を取りながら良品の栽培に努めていく。

本年度 収穫量 943.1 kg 処理後 667.9 kg 歩留 71% (菌床数 960 床)

昨年度 収穫量 674.9 kg 処理後 512.1 kg 歩留 76% (菌床数 540 床)

・販売

販売先は主にスーパー等の量販店を中心にサンシャイン（太陽市）、J A（春の里）、サニーマーケット（はるの市）A-MAX、個人向けで販売をした。また乾燥ハウスで行った乾燥きくらげをよさこい工房、給食と土佐蒲鉾で使用してもらって導入量も増やした事もあり前年度より売上 26%UP だった。

⑦ニラ調整作業（野市青果委託）

作業については、メンバー 6 名、職員 3 名で行っている。ニラの状態により仕上りの量が変わってくるが、大体 30 箱以上できる様になった。また悪い時でも 20 箱できる様になってきた。

そぐり機について・・・メンバー 3 名で行っており、流すスピードや置き方によって、きれいにそぐれず手入れに時間がかかったり、ゴミ箱へ良いニラが落ちて歩留まりが悪くなるので、手順通り落ち着いて取り組む様に声掛けをしている
手入れについて・・・そぐり過ぎたり葉先の枯れの除け抜かりや除け過ぎなどがあり、仕上り量が安定しない事が多い。

計量について・・・メンバー 6 名で行っており、手入れをしながらと手入れ済みと 2 パターンで取り組んでいる。手入れをしながらだとスピードが落ちるが、手入れ済みになるとスピードも良く目標以上の作業量が出来ている。

結束機について・・・職員 1 人で最終検品と箱詰めを行っている。

作業賃 1 束 10 円 1 箱 50 束 500 円

野市青果ニラ栽培部門も立上げて5年目になる。ハウス栽培は状態の良いニラが入ってくるが、露地栽培のニラになると品質が悪くなり仕上り量が減る事が多い。植え替え時期や成長待ちなどで作業が休みになる事があるが、休みの間隔も短くなり売上も200万以上、昨年度に比べ売上150%UPという結果になった。

4. 今後

今後もメンバーの安全面への配慮を一番に考え、引き続き感染症予防対策も留意し職員一同、メンバーが満足できる就労環境を構築していく。

よさこい工房 食品加工

生活介護 ライフ・ステージ あおぞらセンター
就労B // 蒼空舎

営業：天野 陽太

今期はコロナによる経済的閉塞感も薄まり、国内全体の購買意欲や需要が回復した年になった。小売販売及びスーパーなどの需要も戻り、よさこい工房の売上を伸ばすことができた。特にジャム・おかず味噌・佃煮の売上が増加した。また、積極的な展示会等への参加や卸業者との連携によって、新たな販路や顧客を増やすことができた。

一方、注文が増えたことによって製造ラインへの負荷が高まり、職員負担の問題や製造設備不足などの問題が表面化してきた。また、ジャムの原材料は旬の時期に1年間分を入手・処理をしているため、需要予測を上回り白桃や苺の材料在庫が切れるという問題があった。

昨年より継続して挑戦してきた「高知県版 HACCP 新第3ステージ」の認証を取得し、衛生レベル向上への取り組みを強化した。

1 メンバーについて

- ① 現在就労しているメンバーの力量アップを図ることができた。

材料の下処理から、ジャムの加熱調理、調味料の計量、パッキングなどの一連の工程全てに補助的に関わることができるメンバーを1名育成することができた。また、別のメンバーでは瓶詰作業や計量などの作業精度が上がり、基本的には丁寧な作業が出来るようになった。

- ② 全員必要な報・連・相はある程度できているが、一部まだ不十分なメンバーもいる。
③ 新たにメンバーを1名増員した。(合計4名のメンバー)



- ④ 衛生管理や作業手順などの教育を定期的に行うことができず、取り組みとしては不十分だった。

2 製造について

- ① IT 補助金で導入したシステムによって、製品在庫の把握や売上の分析は比較的スムーズにできるようになったが、業務の効率化・省力化に至る有効的な運用までは実施できなかった。
- ② 計画的な製造は出来たが、注文量の増加によって既存のリードタイムでは在庫の確保ができなかった。
- ③ 製造の計画はホワイトボードを設置し、職員やメンバーが周知できるようになった。
- ④ 増加する注文に対応するため、ジャムやおかず味噌などの調理する 1 鍋の量を 1.5 倍に増量し、生産力の向上に努めた。
- ⑤ 新商品の試作とトライアルは実施したが、新商品の販売には至らなかった。
- ⑥ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の読み上げを実施し、5S の推進を努めた。
- ⑦ 畑チームと連携し、生姜・大根・赤紫蘇の内製製造に挑戦した。



3 営業活動について

- ① 県外展示会・商談会 4 件、県内展示会・商談会 12 件参加。
- ② イラストレータを活用し、シロップや粉製品のポップなどを新たに作成した。
- ③ R5 年度として新規顧客は 15 社増、内直接取引は 10 社。
- ④ 業務用おかず味噌のプレゼンテーションを実施し、駅ナカ蕎麦屋「粹麺あみ乃や（近鉄鶴橋駅や西大寺駅、京都駅等）」の定食に採用された。
- ⑤ 高知県版 HACCP 新第 3 ステージ認証によって、安心・安全ブランドの強化と周知を実施することができた。
- ⑥ IT 補助によるシステムの活用により、製品在庫の管理及び売上金額や数量、顧客ごとの分析などの作業を簡略化できた。
- ⑦ 外商公社と共に県外顧客の店舗や本社へ訪問し、打合せや提案及び試食を実施した。
- ⑧ HP のリニューアル及びネットショップの開設を実施し、非対面での販売力の強化を実施した。



4 課題

① 適正な利益の捻出

的確な原価の計算によって原価の実態を把握し、仕入れ先の再選定や値上などの検討材料にしていきたい。

② 生産力の強化

営業活動や国内景気の回復に伴い需要の増加が見込まれるが、多品目を取り扱っていることや人手・設備・作業スペース不足によって、対応しきれない状況が発生している。メンバーの増員などで人手不足を補い、生産力の強化を図りたい。

③ システム活用

商品在庫の管理・把握や売上分析はスムーズにできるようになったが、材料や仕掛かり品の把握による材料在庫の管理は不十分であった。システムの理解を深め、更なる職員の事務作業の省力化につなげたい。

④ メンバー及び職員の力量アップ

回復する景気と連動し、今後更に注文が増える可能性がある。増加する需要に答えるため、また忙しい状況でも事故やクレームなどを起こさないためにも、作業に当たるメンバー及び職員の力量を上げていく必要がある。

あおぞらファクトリー 野菜工房

就労B ライフ・ステージ 蒼空舎

支援員：江渕 恵、横川 研、高津いずみ

1、人員について

メンバー：16名 支援員：3名

- ・ISO9001 の力量一覧をもとに、メンバーの作業能力の向上を目指して個々のスキルにあった支援を行った。
- ・一般就労を目指していたメンバーが就労継続支援A型事業所の実習を経て1月より株式会社千手 障害者就労継続支援A型事業所リエールの利用を開始した。
- ・特別支援学校からの実習生3名の受け入れを行った。

2、メンバー活動

- ・メンバーの体調管理の為、年1回の健康診断の実施、玄関での検温、消毒を継続して行ってきた。体調に変化がないか日々の見守りを行い、家庭やグループホームと連携し対応してきた。
- ・手洗い、手指消毒の講習を行い衛生レベルの向上に取り組んだ。
- ・一般就労を希望するメンバーにA型事業所の実習を行い利用に向けての支援を行った。
- ・年末に忘年会を兼ねた茶話会を行った。じゃんけん大会やお菓子を食べて普段の顔とは違う一面を見られた茶話会になった。

3、作業内容

主な取引先

サニーマート惣菜工場：野菜の下処理、冷凍、粉の計量袋詰め

- ・前年比102%と前年より売り上げは上がっている。冷凍の商品、粉計量などが多い時には、前日に作業する等対応してきた。
- ・納品期日の厳守を基本として、メンバーの作業配置の検討を行った。



北川村ゆず王国：ゆずトリミング

- ・前年比108%と前年より売り上げは上がっている。朝からゆずの作業を行う等、午前中の作業終了後にすぐにゆず作業に取り掛かれるようにした。



やまくに：いりこ割、いりこ粉の計量作業

- ・前年比98%と売り上げは減少した。いりこの作業は問題なくいつものスピードで行う事が出来たが、原材料の不足があった為売り上げが伸びなかった。



よさこい工房：生姜、文旦の皮のスライス

- ・前年比147%と売り上げは上がっている。生姜の作業が前年より多かったことが考えられる。生姜を洗う作業が出来るメンバーを増やして対応した。

4、留意

- ・メンバーの出来る作業を増やしていけるように支援を行ってきた。作業能力の向上を目指して、作業に取り組む中でどの工程がやりづらいかを見極め改善をしてきた。
- ・売り上げ850万円を目指して作業に取り組んできた。前年比102%となっているが目標金額には届かなかった。

あおぞらファクトリー あみおり工房

就労B ライフ・ステージ 蒼空舎
生活介護 あおぞらセンター

サービス管理責任者：黒沢 圭子

1、人員について

① メンバーへの支援

メンバー20名

(あおぞら籍10名、
蒼空舎籍10名)

支援員 5名

(あおぞら2名、
蒼空舎3名)



② 実習生等の受け入れ

特別支援学校より、高等部2年生3名（男子1名・女子2名）の実習受け入れを行った。高等部3年生の実習希望がなく、利用には繋がっておらず課題となっている。

③ 支援員のスキルアップ

メンバーへの支援については、各支援員が障害特性を理解し、共通認識のもと支援が行えるように、研修や必要に応じてケース会等の話し合いの場を持った。作業面においては、県内の手袋事業者との連携を継続し、技術の向上に努めた。

2、メンバー活動

- ・メンバー1人1人の特性に配慮しながら、仕事意識を持って、取り組めるよう支援を行った
- ・個別支援計画に則り、個々の目標を意識した支援を行った。
- ・作業量については、個々の目標数を設定し、達成感を感じ意欲に繋げていけるように支援を行った。
- ・感染症への対応として、手洗い、消毒、マスク着用を継続し、作業時も、可能な限り座席を離し、室内の定期的な換気も行った。



3、自主製品

① 仕入れ・製造

- ・材料費については度重なる値上げがあり、厳しい状況が続いた。値上げ前には、一括仕入れを実施し、支出も大きくなった。
- ・残糸については、糸自体が減少傾向にあり、安定した確保が難しくなっている。
- ・材料及び編み機部品の在庫管理を徹底し、早めの発注を心掛け、在庫が途切れることのないようにした。
- ・製造については15台の手袋編機で約30種類の手袋の製造を計画的に行った。
- ・編機の運転については、作業日のみの稼働では追い付かず、年間を通して夜間運転及び2、3月は、休日運転を実施し、在庫確保に努めた。
- ・大勝製造所の下請け作業は、自主製品との両立に苦戦したが、センターと連携して取り組んだ。

② 販売

- ・現状の取引先とは、変わらず安定した取引を継続することができた。
- ・顧客からの要望を聞き、オーダーにも積極的に取り組んだ。
- ・令和6年2月に販売管理ソフトを導入し、試験運用を経て、4月より本格運用に取り組んでいる。



指欠損者用オーダー

年間販売数

単位：ダース

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1628	1407	1469	1929	1520	1649	2138
11月	12月	1月	2月	3月	合計	
1558	2155	1528	1749	1844	20574	

4、課題

- ① 個別対応が必要なメンバーへの支援。
- ② 販売管理ソフトの有効活用。
- ③ 受注に対応できる在庫の確保。
- ④ 原価を抑える努力をする。
 - ・不良率を抑える。
 - ・新たな仕入れ先の確保。



あおぞらカンパニー

就労B ライフ・ステージ 蒼空舎

支援員：中屋 大起

グループ就労

シーサイドホーム桂浜・つむぐ …… メンテナンス業務

1、人員について

メンバー4名 支援員 1名

令和5年度は、前年同様メンバー4名体制で取り組んだ。来年度も継続して4名体制を継続する。



2、メンバー活動

- ・作業内容の一部変更があった。初めは戸惑うメンバーもいたが、徐々に慣れ、問題なく取り組めた。

- ・作業ではゴミ、ホコリ、シミなど抜かりなく出来たかを1つ1つチェックしアドバイスを行った。
- ・シーサイド内でコロナ感染者が発生した時には、委託先の指示に従い、立ち入りを禁止し、つむぐをメインとする作業を行った。
- ・感染対策として、食事前のうがい、入室前の検温、マスクの着用、手洗い消毒を徹底した。
- ・水曜日（公休日）に、交代で蒼空舎に出勤し外周の清掃や施設内清掃作業に従事した。

3、就労活動

公休日 水曜日、日曜日、 1月1日・2日
勤務時間 9：00～16：30



4、留意

- ・緊急時の連絡先は蒼空舎とした。
- ・作業内容一部変更後に手順書を修正した。コロナ対応時の作業に関しても手順書を作成し、対応を行った。
- ・支援員が応援に入っても、支援及び業務水準を維持できるように、前日に引継ぎメモを作成し、確認して取り組めるようにした。

ライフ・ステージ 第2 あおぞら

(リサイクルショップ、あおぞらショップ、バザー、メール便)

就労B 第2 あおぞら

サービス管理責任者：下元 真人

1、人員(事業所全体)について

- ・メンバー19名に対して、常勤支援員3名、サビ管（管理者兼務）1名、調理員1名の体制で支援を実施した。
- ・清掃作業は担当職員1名にメンバー6名、リサイクル販売は職員1名にメンバー7名、その他活動(メール便含む)は職員1名にメンバー6名、として支援にあたった。

2、メンバー活動

- ・メンバー本人の希望や目標等をもとに支援計画を作成、それに沿った支援を提供した。
- ・作業を通して働く喜びや達成感を持てるよう、また、社会性を身につけてもらうよう心掛けた支援を実施した。
- ・作業量に応じて担当以外の作業にも取り組んでもらい、メンバーの成長、育成に努めた。
- ・健康管理、体力づくりを目標に取り組んだ。

3、授産内容

リサイクル販売

新型コロナが五類となり、ある程度の業績回復を期待したが、結果的に令和4年度も割り込む結果となった。高齢のお客が多かったことが原因の一つだと考え、若いお客様に来ていただける店づくりを目標に取り組んだが、結果的に地域の高齢者が入りづらい店になったとの指摘もあった。



南側店舗での百円均一セール

あおぞらショップ(食品等仕入れ販売)

支援学校や行政機関との関係づくり、メンバーの活動支援を目標として取り組んだ。贈答用新高梨の収穫量が少なく、注文に対応できなかった。逆に文旦は家庭用B品が少なかった。他の農園との契約も検討したが、実施には至らなかった。

ダンボール、金属等回収販売

目標収入は達成できなかったが、令和4年度の実績は上回る事ができた。価格に変動はなかったが、大口の金属回収依頼が少なかった。また、一般家庭からの書籍処分の依頼も少なかった。

フリーマーケット

月一回の開催、古着の在庫調整を目標に取り組んだが、コロナが5類になったことで中央公園のイベントが多くなり日程が確保できなかった。雨天中止が多かったことも原因。開催できたのは五回。令和四年度と同じ五回の開催だが、出店料収入は半減した。開催日に曇天や雨が多く、出店希望が極端に少なかったことが原因。いずれにしても、メルカリの影響でフリマの出店者は減る傾向。出店者が少ないこともあり、中央公園の真ん中を広く使い、古着詰め放題を実施した。お客様に好評で、問い合わせも多く寄せられるようになった。古着の在庫をある程度減らすことができた。



中央公園フリーマーケット
古着詰め放題

クロネコDM便

配達冊数増、配達冊数に応じた配達時間を支援目標とした。熱中症対策、寒さ対策等を徹底し、日々の体調確認に努め、担当するメンバーの健康管理を支援した。クロネコがDM便から撤退することになり、取扱量を増やすことができなかった。収入目標は達成できなかったが、令和4年度の

実績は上回ることができた。2月より郵便局の配達便に取り組むようになった。日々の配達量にかかわらず、60冊分の工賃を固定していただくよう契約した。

自販機

担当者を決め、周囲の清掃、空き缶、ペットボトルのこまめな処理に努めた。販売目標を超えることができた。

清掃作業

丁寧な作業を目標として取り組んだ。個人からの請負作業は、作業量に応じた見積もりをすることで、収入目標を達成することができた。リサイクル販売が低迷し、職員が危機感をもって取り組んだ結果。



キャッシュコーナーの清掃

授産活動総収入

コロナ禍からのV字回復を合言葉に取り組んだが、結果的に目標を達成できなかった。令和4年度の実績も割り込んでしまった。リサイクル販売の低迷が大きな要因。

4、メンバーに支払った賃金

授産収入は低迷しているが、メンバーの工賃(勤務評価に対する日給)は現状維持とした。メンバーの数が減ったにもかかわらず、支払総額が微増したのは、メンバーが積極的に残業等に取り組んでくれたため。

工賃について

こうち福祉会

工賃については、各事業の授産収入から必要経費を差し引いたものを、各事業に従事したメンバーに配分をする。また、基本給については、工賃評価基準表に基づき10段階評価し、皆勤賞をとり入れ、支給している。評価については1年に1回行うものとする。但し、必要がある場合は、随時、評価の見直しを行う。

(目的)

第1条 この規定は、利用者に対して授産収入を工賃として配分するための基準を定めるものです。

(定義)

第2条 工賃とは、授産収入から授産事業に必要な所定の経費を差し引いたもので、給料として支給することにより、労働意欲を高め、生活に潤いを与え、地域生活への移行助長を図るものです。

(工賃の種類)

第3条 工賃の種類は、職能給、諸手当及び賞与とします。

- 1 職能給は評価基準表により算出されたものとします。
- 2 諸手当は、皆勤手当とします。
- 3 賞与は授産収入の状況に応じて支給します。

(支給額)

第4条 工賃は日給制で、支給額は、次により算出した額とします。

- 1 職能給 評価基準表により利用者の作業態度及び作業能力を評価した点数により設定し、設定された単価に出勤日数をかけたもので算出をします。
- 2 皆勤手当 月毎に支給をします。
- 3 ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウィルスの欠勤支給
発症日より2週間内の作業日については日給を支給する。皆勤手当は欠給とする。
尚、給食は3日間を徴収する。

(支給日)

第5条 毎月の工賃の支給は、月末を締め日とし、翌月5日を支給日とする。賞与は、7月と12月に支給する。但し、支給日が休日にあたる場合は、翌日を支給日とします。

(勤務)

第6条 1日の勤務時間は、各作業毎に設定。半日以内の遅刻、早退については、2分の1出勤とします。また、半日を超える遅刻・早退については欠勤とします。

(作業評価)

第7条 作業評価は、別表の工賃評価基準により評価するものとし、年度末（3月）に評価会議を開催して評価を行います。但し、特に必要がある場合は随時評価の見直しを行うものとします。

新規利用者の作業評価は、利用開始から3か月後に行うこととします。

(評価会議)

第8条 評価会議は、工賃評価基準をもとに審議するものとし、施設長、管理者、サービス管理責任者、作業及び生活支援者等により構成します。

(諸帳簿)

第9条 工賃の支給状況を常に明確にするため、次の簿冊を備えるものとします。

- 1 工賃集計表
- 2 作業日誌
- 3 作業評価表

(特別休暇)

第10条 利用者に次の各号のいずれかに該当する事情が生じた場合または願い出により、所定の日数の特別休暇が与えられます。また、特別休暇は有給とし、その間に休日があるときはこれを控除する。

- | | |
|-----------------------------------|------|
| 1 本人が結婚するとき | 5日以内 |
| 2 子が結婚するとき | 3日以内 |
| 3 配偶者が出産するとき | 3日以内 |
| 4 配偶者、父母、子が死亡したとき | 3日以内 |
| 5 兄弟姉妹、配偶者の父母が死亡したとき | 3日以内 |
| 6 祖父母、叔父叔母が死亡したときは無給とするが、皆勤の対象とする | 3日以内 |
| 7 これにかかわる欠食については請求の対象としない | |

(その他)

第11条 この規定に定めていない細部の事項については自治会及び職員会で協議の上で対処する。

附則

この規定は、平成21年4月 1日から施行する。

この規定は、平成22年4月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、平成24年1月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、平成26年7月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、令和 3年7月30日から一部改訂して施行する。

こうち福祉会 全事業

いきいき工房、手袋、畑（センター・蒼空舎）、野菜加工（ファクトリー）、
G 就労、第2あおぞら、よさこい工房（内部実習）

令和5年度末の評価ごとの工賃については下記の通りとなっている。

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
いきいき工房 基本日給	1200	1000	850	700	550
該当者	0人	1人	0人	1人	2人
野菜加工 基本日給	2,500	2,100	1,700	1,300	1,050
該当者	0人	0人	0人	1人	4人
てぶくろ 基本日給	1,300	1,100	900	700	600
該当者	1人	3人	3人	4人	3人
畑（センター） 基本日給	1300	1100	900	750	600
該当者	0人	1人	0人	1人	1人
畑（蒼空舎） 基本日給	2,300	1,900	1,500	1,100	900
該当者	0人	1人	0人	5人	3人
G 就労 基本日給	1,600	1,500	1,400	1,300	1,200
該当者	0人	0人	0人	2人	2人
第2あおぞら 基本日給	1500	1350	1200	1100	1000
該当者	0人	0人	0人	0人	3人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
いきいき工房 基本日給	400	300	200	100	0
該当者	2人	2人	3人	2人	1人
野菜加工 基本日給	900	800	700	600	500
該当者	3人	3人	1人	0人	0人
てぶくろ 基本日給	500	400	300	250	200
該当者	4人	1人	0人	1人	0人
畑（センター） 基本日給	500	400	300	200	100
該当者	0人	1人	0人	1人	1人
畑（蒼空舎） 基本日給	700	500	400	300	200
該当者	0人	0人	0人	0人	0人

G 就労 基本日給	1,100	1,000	900	800	700
該当者	2人	1人	0人	0人	0人
第2あおぞら 基本日給	900	800	700	600	500
該当者	3人	6人	8人		

よさこい工房（内部実習）

基本月給（円）	88,000	52,800	26,400
基本日給（円）	4,000	2,400	1,200
基本時給（円）	500	300	150
該当者	1人	1人	2人

令和5年度 工賃実績・令和6年度 工賃目標

蒼空舎：就労継続支援B型 ※高知県平均工賃月額の算定方法により算出

事業	員数	工賃実績 (令和5年度)	工賃目標 (令和6年度)
蒼空舎 合計	41人	12,237,351円	13,776,000円
〃 平均	41人	26,557円	28,000円

第2あおぞら：就労継続支援B型 ※高知県平均工賃月額の算定方法により算出

事業	員数	工賃実績 (令和5年度)	工賃目標 (令和6年度)
第2あおぞら 合計	20人	4,988,650円	5,400,000円
〃 平均	20人	22,471円	22,500円

あおぞらセンター：生活介護 ※前年度の工賃支払総額（年2回の賞与含む）÷利用者数（30人）÷12か月

事業	員数	工賃実績 (令和5年度)
あおぞら 合計	30人	4,346,700円
〃 平均	30人	12,074円

給食弁当

ライフ・ステージ 蒼空舎
あおぞらセンター
第2あおぞら

調理員：久米ゆかり

1、嗜好調査と平均所要カロリーの摂取について

- ・ 5月には嗜好調査、栄養所要量の算定を行い、献立作成に役立て、毎月の献立が年齢別、性別、労作に見合った内容となるように食事の提供に努めた。食物アレルギーの人に関しては、除去したり、別のものに対応した。
- ・ どうしても食べられない人には、細かく切る、少なく入れるなど、少しでも口に入れられるようにした。
- ・ 肥満傾向の人や、カロリー制限が必要な人に関しては、ご飯の量を少なく入れるようにしてバランスをとっている。
- ・ 毎月の献立を、家庭、グループホームに配布し、1日30品目を目指し、バランスの取れた食事を心がけてもらった。
- ・ 新しい献立、行事食、メンバーのリクエストメニューを取り入れている。行事食では、その都度話し合いをし、7月の七夕、8月のバーベキュー、12月のクリスマス、2月の節分、3月のひなまつり等には、巻き寿司、ちらし寿司、デザートなど、季節の物を取り入れ、彩りよく仕上げた。



2、食材に関して

- ・ 「自家農園」の収穫物の種類も増え、年中通して色々な野菜が賄えるようになり、業者で注文するよりも新鮮で安い食材が使えるようになった。収穫の時期には畑班との連絡を、こまめに取り合っている。
- ・ 急な野菜の収穫には、献立のメニュー変更等で対応している。
- ・ 価格高騰の際には、食材の変更や、業者の変更等で対応している。
- ・ 地元産の春野米や、よさこい工房で作られた加工品も献立に取り入れ、給食で使用した。
- ・ 毎日の食材から出た生ごみは、コンポストで処理し、エコ活動に努めている。



3、食数について

- ・ICT の導入により、各事業所からのお弁当の食数を共有し、1 日の食数の合計や1 ヶ月のメンバーの食数の集計など、事務作業を効率化できるようになった。
- ・1 日約 1 2 0 食（5 月現在）を調理員 3 名で作っている。
- ・4 ヶ所への給食弁当の配達には専任者があたった。
- ・コロナ緊急時には、緊急対策弁当でグループホームと連携対応した。最高食数 21 食を記録した。

4、衛生について

- ・「HACCP に沿った衛生管理」の制度化に伴い、衛生管理の実施状況の記録、保存等を行い食中毒の予防に気を付けた。食品の納入時には、表面温度もチェックし、食品の加熱加工冷却温度を計り、記録していった。
- ・厨房の床は毎日清掃し、器具は食器消毒保管庫で乾燥し、作業台はアルコール消毒、ふきんは熱湯消毒をして、安全衛生には、十分気をつけている。
- ・厨房内では専用のスリッパ、帽子を着用している。
- ・食堂は、アクリル板を設置し、アルコール消毒しコロナ感染予防に努めた。

5、腸内細菌検査について

- ・厨房職員の腸内細菌検査を、第 2 月曜実施に定めてから、遅れることなく、腸内細菌検査を実施できている。

グループホーム<共同生活援助・包括型>

ライフ・タウン あおぞらホーム

ライフ・タウン 蒼空舎

サービス管理責任者：杉本 郁

1 事業の目的

ライフ・タウンあおぞらホーム及びライフ・タウン蒼空舎において実施する共同生活援助（介護サービス包括型）事業が、日本国憲法及び施設の理念に基づき、適切な運営の確保管理を図るとともに、共同生活住居において利用者の意思及び人格尊重し、利用者の立場に立った適切な障害福祉サービスを提供することを目的とする。

2 運営の方針

「ともにかがやき、ともに暮らす」の基本理念のもと、障害があっても地域のなかで普通に暮らし続けることができるよう、利用者の身体及び精神の状況並びに置かれている環境に応じて、事業所に規定する共同生活を営むべき住居において、食事の提供、その他の日常生活上のサービスを適正に行った。サービスの実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めた。

3 入退居状況

入居者10名 退居者4名

男性ホーム18・女性ホーム7 合計25ホーム

(定員113名 内オリーブ男性ホーム2ホーム)

4 職員の状況

管理者1名 サービス管理責任者 5名 25ホームに専任の共同生活支援員(22名)
家庭生活支援員10名 日常生活支援者11名 夜間支援員27名 委託看護師5名

5 利用者の状況

【性別】	男性	61名	【障害支援区分】	区分6	2名
	女性	33名		区分5	5名
	合計	94名		区分4	29名
				区分3	24名
				区分2	30名
				区分1	4名

6 職員会議・研修等

☆ケアテーマ別研修

高知県福祉研修センター

- ・リスクマネジメント&苦情(6月)(12月)
- ・感染予防基礎(6月・11月)
- ・接遇マナーについて(8月・9月・10月・11月)
- ・急変への気づきと対応(10月)(3月)
- ・権利擁護(9月)

☆強度行動障害(法人内部研修)

- ・強度行動障害講師による研修 講師 前南海学園 西村潤
- ・令和4,5年度 強度行動障害継続研修事例発表会 (3月) こうち福祉会

☆虐待研修

- ・高知県障がい者虐待防止、権利擁護研修（6月） 高知県福祉研修センター
- ・本質的支援で虐待を防ぐ（9月） 高知県障害福祉課
- ・虐待防止に向けた組織運営について考える（10月） 高知県・高知県社会福祉協議会
- ・GH会内部虐待防止研修（10月） あおぞら虐待委員会
- ・法人全体虐待研修（10月） 県立社会福祉学部准教授 遠山真世
- ・GH内部小規模研修 あおぞらセンター（11月20日・30日 12月4日・11日 20日）
- ・「虐待防止とリーダーの役割」（11月） 高知県社会福祉協議会

☆恒例研修

- ・普通救命講習（5月・6月） 高知市消防局救急
- ・てんかん基礎講座（8月） 日本てんかん協会
- ・福祉サービス苦情解決セミナー（9月） 高知県運営適正化委員会
- ・全国グループホーム等研修会中国地区大会（10月） 全国グループホーム等研修会
- ・地域共生社会フォーラム（10月） 高知県、高知県社会福祉協議会
- ・リカレント教育講座（10月） 高知県立大学社会福祉学部
- ・施設内感染対策研修（6月）（11月） 高知市保健所地域保健課
- ・施設長・幹部職員研修会（11月） 高知県知的障害者福祉協会
- ・障害者の「お金の使い方」を学ぶ（11月） 高知県立消費生活センター
- ・職場のパワーハラスメント防止の取り組み（12月） 高知県経営協会
- ・施設内感染対策研修会（12月） 高知県医療関連感染対策地域ネットワーク事業
- ・高知県高年齢者雇用促進セミナー（12月） 高知県経営者協会
- ・令和5年度 防災研修（1月） 高知県知的障害者福祉協会
- ・東日本大震災の経験から学ぶ【平時の備え】（1月） 高知県経営協 BCP・BCM 推進セミナー
- ・矯正施設から退所した高齢者や障害者の社会復帰に関する研修会 高知県社会福祉協議会
- ・人材確保支援セミナー～採用・定着～ 高知県社会福祉協議会
- ・農福連携に関する意見交換会（2月） 高知刑務所
- ・サービス管理責任者更新研修
- ・専門コース別研修（意思決定支援）Web（3月） 高知県障害福祉課
- ・パワーハラスメント・セクハラメント・意思決定研修（3月） 世話人伝達研修

月2回のグループホーム世話人会を開催し、それぞれの入居者の情報を職員が共有化し、支援に努めるとともに生活課題に対する共通意識化を行った。

7 節季・生活の彩り

- ・ビアホール SP 春野（7月）
- ・芳原いもいも祭り（11月）

- ・高知コーラス合笑団 高知県民文化ホール オレンジ (12月)
- ・もちつき大会
- ・迎春 竹ヶ島神社 葉王寺初詣

各メンバー誕生月に誕生会を各ホーム内で実施。

8 見学・体験入居

高知市立特別支援学校、日高特別支援学校・みかづき分校、高知しんほんまち分校、山田特別支援学校、相談支援事業者他、ご本人、ご家族の希望に応じ随時見学者を受け入れた。

地域移行をスムーズに行うため、体験入居サービスを提供

体験入居者 実績日数 24日 人数 5名 (うち1名入居)

9 防災計画・訓練

防災訓練

防災訓練 (12月) 消防立ち合いで水消火器を使い訓練

辰の尾防災会と神田・船岡自主防災会の合同炊出し訓練 (11月12日)

避難所開設訓練 高知国際中・高校 体育館 (11月25日)

模擬訓練 (3月) 沖田公園

10 苦情・相談

①苦情解決責任者②苦情受付担当者③第三者委員を設置し、苦情をマイナスのイメージでとらえるのではなく「メンバーの声」として積極的に取り組み、福祉サービスの質の向上を図るよう苦情解決体制をとっているが、苦情はなかった。

11 健康管理

日中活動先で健康診断を受けられないメンバーについて高知西病院健康管理センターに於いて健康診断を実施

希望者のコロナウイルス・インフルエンザ感染予防接種

12 高知保護観察所と「自立準備ホーム」 委託契約締結

保護観察に付されている者及び更生緊急保護の対象となる者であって適当な住居の確保が困難なものについて、更生保護施設以外の宿泊場所に宿泊させて行う措置を委託する場合の手続き及び当該宿泊場所における処遇の方法等について、関係法令に定めるほかに細目を定め、その適正かつ効果的な実施を確保することにより、その自立更生の促進を図ることを趣旨とする

実績…1件 (12/7~1/15) 40日間

57歳男性 (健常者・覚醒剤) アパートで自立

1 3 配食事業

GH 配食部お試し

期間：11月6日夕食～11月20日朝食まで

対象：グレートハイツ

(よさこいホーム・あかりホーム・まほらホーム・ひよりホーム・のどかホーム)



明けゆく神社、初詣。

相談支援事業

ライフ・サポート あおぞら

指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業

指定一般相談支援事業(地域移行支援・地域定着支援)

相談支援専門員：林 幸孝

1. 相談活動

相談支援専門員の専従が2名、兼務が2名、アシスタント1名の体制で行った。令和5年度も、いの町委託業務も継続し計画相談を実施している。

計画作成した方については、ご本人・保護者様の思いと将来的な展望及びモニタリングも含め、各支援機関への計画書の提示を行うとともに障害特性に合わせた支援方法の工夫等の支援依頼を行った。また、サービスの変更や支給量の変更による施設への見学同行等の支援を実施、また、一人での通院等に不安がある利用者には同行を行い、福祉分野だけでなく医療分野に関しても支援を行った。

相談支援専門員の基本的な抑え等もできるよう当事業所内において内部勉強会を開催することにより、障害福祉サービスにおける申請等の基本的なことや、福祉に関係する様々な事の勉強を行った。また、高知市などが行っている研修等にも参加してスキルアップが図れるように努めてきた。



2. 令和5年度請求実績

令和5年度請求実績詳細

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
有期・新規	23件	32件	21件	21件	11件	12件
モニタ	23件	12件	37件	25件	35件	16件
高知市調査業務	10件	9件	8件	7件	5件	8件
特地加算	9件	11件	12件	12件	7件	5件

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有期・新規	9件	15件	12件	15件	13件	25件
モニタ	28件	34件	23件	26件	44件	21件
高知市調査業務	9件	8件	16件	14件	19件	15件
特地加算	6件	16件	4件	10件	8件	12件

3. 今後の課題について

- ・業務上書類に追われることが多くなっており、直接的な関わりが以前に比べたら減っている。
- ・強化型の単価が上がる事や件数を増やすことにより少しでも赤字となっている事業の改善を行えるようにしていく。
- ・サポーター職員が来年度相談支援員の資格が取れる為、基本的な事以外にも色々な所へ同行して少しずつ実践的な技術も身に付けていけるようにしていく。また、兼任職員とも連携を取っていき、相談支援技術が少しでも向上できるようにしていく。
- ・業務縮小や撤退の事業所が多く、1つの事業所に対して件数が増えている。区分調査や新卒の関係で年度末に対応する人数が年々増えており、月によっての業務量の隔たりが見られる。

障害者支援活動

社会福祉法人こうち福祉会

- ・事業別支援会議を月1回以上、各事業所別の代表が集まり月1回運営委員会を開催し、情報の共有化、支援技術の向上を計った。
- ・専門学校や、短大からの実習生を受け入れ、福祉専門職に魅力を感じてもらえるよう助言や、指導を行った。
- ・家庭との連携による支援体制の強化に勤めている。
- ・メンバーの置かれている環境及び日常生活全般の状況等を通じてメンバー及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし、適切な支援内容の把握に基づき到達目標を設定しサービス担当者会議を経て個別支援計画を作成している。
- ・ICTを全事業所で活用し、情報共有を行っている。
- ・生活介護支援者を中心に、「強度行動障害研修」に取り組み、その中でも個別に事例検討を行い「強度行動障害継続研修事例発表」として令和6年3月27日に法人全体職員の前で発表を行った。
- ・虐待防止研修として職員、世話人を含む法人全体職員で10月31日、ふくし交流プラザにて県立大の遠山先生、香川県アイルコート理事長の相原氏を招き、講義やグループディスカッションを行った。また、グループホーム世話人を小規模グループ（4～5名）にし、支援の困りごとやグレーゾーンについても話をしてきた。事業所ごとの職員会で、こうち福祉会身体拘束指針についても確認を行った。
- ・BCP（業務継続計画）について自然災害、感染について防災部を中心に話し合いを行い事業所ごとの計画を作成した。
- ・年間を通して、苦情理解と対応、リスクマネジメント、意思決定支援、権利擁護、虐待防止などの研修に参加し、研修報告や資料を用いて事業所で周知している。

利用者の地域生活活動

令和5年12月13日に少し規模を縮小した形で餅つき大会を開催した。

数名のメンバーと支援者で餅をつき、各事業所から時間差でセンター駐車場に集まり、毎年恒例のうどんと餅を食べた。



安全・衛生活動

- ・ 防災避難訓練 ※年度最後の避難訓練は消防署立ち合いで訓練を行った。

あおぞら・・・7月4日 / 11月1日 / 3月14日

蒼空舎・・・6月13日 / 10月24日 / 2月20日

第2あおぞら・・・6月30日 / 11月17日 / 2月29日

- ・ 健康診断

総合保健協会

蒼空舎

高知西病院健康管理センター

あおぞらセンター、ファクトリー、

第2あおぞら、GHメンバー一部

- ・ 給食

咀嚼、偏食の指導

- ・ 衛生指導

感染症の予防（手洗い、うがい等）

施設内の消毒、検温



職員 構成

管理者	5名（兼任）
事務長	1名
サービス管理責任者	10名 （あおぞら・1名、蒼空舎・2名（兼任）、第2あおぞら・1名（兼任）、 あおぞらホーム・5名（兼任）、ライフ・タウン蒼空舎・1名（兼任））
相談支援専門員	4名（2名兼任）
相談支援アシスタント	1名
支援員	19名 （あおぞら・7名、蒼空舎・9名、第2あおぞら・3名）
共同生活支援員	22名
日中生活支援員	10名
看護職員	2名
調理員	3名 （あおぞら・1名（栄養士）、蒼空舎・1名（栄養士）、第2あおぞら・1名）
計	75名（70名）

嘱託医	1名
委託看護師	3名
会計士	1名
講師（ちぎり絵、体操、合唱）	3名
家庭生活支援員	10名
夜間支援員	27名
宿直者	2名

苦情、相談受付箱に関する報告

こうち福祉会では、よりよい施設を目指して、利用者の皆様のいろいろな意見、要望、苦情等を真剣に受け止めるために、各事業所に相談受付箱を設置しています。令和5年度は、相談受付箱の利用はありませんでした。しかし、不満や相談事がなかったとは考えていません。何でも気楽に相談していただける施設を目指して、引き続き相談受付箱を設置し、メンバーに寄り添った支援を目指したいと思います。